

大学副学長 鈴木達夫氏
 高校将棋部顧問 原野照久氏
 大学男子卓球部監督 鬼頭明氏
 附属中卓球部監督 真田浩二氏

後藤鉀二賞 4氏に授与



後藤鉀二先生の遺影の前で、後藤淳理事長を囲み、表彰状、賞牌を手にした受賞者、同席の皆さんで行われた記念撮影

名古屋電気学園の後藤鉀二先生奨学記念会（会長・後藤淳理事長）は一月二十二日、平成二十五年度後藤鉀二賞を大学の鈴木達夫副学長、高校の原野照久教諭、学園総務部の鬼頭明事務主任、高校の真田浩二教諭の四氏に授与、故後藤鉀二先生の建学の精神を昂揚し、学園の発展に大きく寄与した皆さんの功績を称えました。（受賞者の横顔と謝辞2面）



受賞者にお祝いの言葉を述べる後藤淳理事長

授賞式は後藤鉀二先生の遺影が飾られた中学会議室で行われ後藤泰之学長ら記念会や学園の役員が出席、後藤鉀二先生が亡くなった午前十一時三十分全員で黙祷を捧げて始まりました。後藤理事長が四氏それぞれに表彰状、賞牌を手渡し、「後藤鉀二先生は戦後の困難期にあつて学園の礎を築き、また卓球にも情熱を傾け、世に言われるピンポン外交で米中国交回復に大きく貢献しました」と紹介した後、お祝いの言葉を述べました。

鈴木氏は四十八年間にわたり教育・研究の発展のみ

学園発展に顕著な業績

ならず教学全体、就職体制の強化、大学運営に尽力、「学園の教育」に功績を残しました。原野氏は将棋部顧問として女子を一昨年、昨年と全国高校将棋選手権で二年連続優勝に導き、「学園の発展」に寄与しました。鬼頭氏は大学男子卓球部監

督として昨年インカレ優勝、真田氏は附属中卓球部の監督として昨年の春夏連覇を達成、ともに「卓球の名電」の名声を高め「スポーツの振興」に業績をあげました。後藤理事長は特に卓球の両監督に対し「東京オリンピックを目標に、選手をしっかりと鍛えて送り出してほしい」と要望しました。



愛知工業大学
 愛知工業大学情報電子専門学校
 愛知工業大学名電高校
 愛知工業大学附属中学校

目次:

受賞 4氏の横顔	2
年頭の挨拶	3
吹奏楽部演奏会	3
電気学園百年史	4
新 2号館を着工	5
大学の映画公開	6
設置校で入試	7
新旧総領事訪問	8

発行所

名古屋電気学園

〒470-0392

豊田市八草町八千草 1247

TEL (0565) 48-8177

名古屋電気学園百年史を発刊

「教育理念を次代へ継承」

記事 4面

学長補佐など要職を歴任



鈴木達夫氏 経営学科教授。現在は副学長のほか学生支援本部長も務めています。昭和四十一年に助手として採用されて以来、生産マネジメントを専門に教育・研究に尽力、社会に役立つ人材を数多く送り出しました。平成元年に教授昇格以来、学生部長、就職部長、学長補佐など要職を歴任。また経営情報科学部への改組では責任者として尽力、大学の発展に大きく貢献しました。鈴木氏は「後藤鉦二賞は身に余る光栄です。四十八年間、自分ながらよく頑張ったという思いです。こととして定年を迎えますが、今後とも学園の発展に貢献したい」と謝辞を述べました。

強豪に伍する将棋部育成



原野照久氏 昭和五十三年に大学の応用化学科を卒業と同時に高校教諭に採用。化学を教える傍ら、二十三年前に将棋同好会を立ち上げ、四年後に部に昇格。生徒の才能を育てることに尽力、次第に成果が表れ強豪の東海や明和に対する勝率を上げていきました。八年前に全国大会に出場するまでになりました。原野氏は「教員になつたころ右も左も分からない私を周りの先輩方に育てていただきました。全国優勝で百周年の年に少しは貢献できたかなと思っています。後藤鉦二賞は身に余る榮譽で、賞をいただいた者の責任として今後とも努力する覚悟です」と謝辞を述べました。

後藤鉦二賞

受賞4氏の横顔と謝辞

インカレ団体優勝へ導く



鬼頭明氏 附属中、名電高校、愛工大と一貫して卓球に取り組み、大学卒業後二年間、ドイツでプロ選手として活躍、二〇〇四年のアテネ五輪に男子ダブルスで出場、ベスト16入りを果たしました。平成十九年から学園職員となり大学男子卓球部を指導。二十一年度からは監督として情熱あふれる指導を続け、昨年の第八十三回全日本大学総合卓球選手権で十三年ぶり五回目の男子団体優勝を導きました。鬼頭氏は「一人の力ではなく、皆様の支えがあつて優勝させていただいた、という気持ちです。感謝を忘れないで今後も学園の発展に尽くしていきます」と謝辞を述べました。

中学卓球 春夏連覇の快挙



真田浩二氏 附属中、名電高校、愛工大と一貫して卓球に取り組み、卓球の名門・協和発酵などで活躍した後、名電高校へ。平成二十四年からは専任教諭となり、その傍ら中高の卓球部を日本一にすべく熱心に指導にあたり、中学卓球部男子は昨年三月には全国中学選抜で初優勝、八月には全国中学校卓球大会で十五年ぶり、七回目の優勝を果たしました。真田氏は「素晴らしい賞をいただきました。多くの方に支援を受けての優勝でしたが、この結果に満足することなく、二〇二〇年の東京オリンピックに出場できるように選手を育てることに頑張りたい」と謝辞を述べました。

後藤すゞ子先生奨学金を交付

学園は一月二十一日、「後藤すゞ子先生奨学金」を大学工学部学生の母親に交付しました。元学園長の後藤すゞ子先生の遺志に基づき設けられている奨学金は、思いがけない理由で学資の負担が難しくなった設置校の学生、生徒が学業を継続できるように支援するものです。

交付式は八草キャンパス本部棟で行われ、後藤淳理事長が、すゞ子先生が奨学金を設けた思いを説明し、母親に「頑張ってください」と手渡しました。

後藤理事長は学生にも「しっかりと勉強して親孝行してください」と励ましの言葉をかけていました。後藤泰之学長ら大学、学園幹部も同席しました。



後藤すゞ子先生奨学金を母親に交付する後藤淳理事長

社会で頑張れる人材育成を

二〇一四年 後藤淳理事長が年頭挨拶

学園の後藤淳理事長は一月六日、各設置校の仕事始めで二〇一四年の年頭挨拶を行いました。前日開かれた高校吹奏楽部の定期演奏会に触れ、「若い人をはじめ多くの人が演奏を聞きに来てくれました。素晴らしい演奏で、学園の正月が力いっぱいスタートできたと感じました」とまず喜びを述べ、教職員を激励しました。



後藤理事長は学園・大学、中学・高校、専門学校でそれぞれ年頭の挨拶をしました。

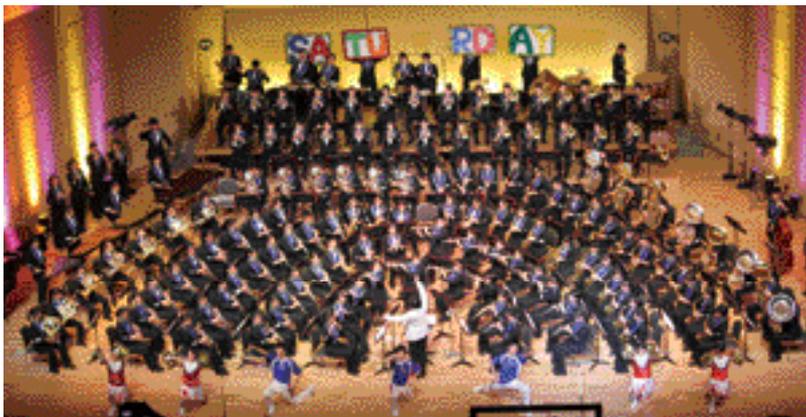
このうち八草キャンパスの本部棟では、学園・大学の教職員を前に「年々少子化が進んでいます。国の力は人。学園も、大学の力は人。社会に認められる力を皆さんで着けていただきたい。大学は学科も増え、建物、先生方、学生諸君も増え、五十年かかってこれだけの形になりました。この基になった人たちのことが正月には特に思い出されま

学園・大学の教職員を前に年頭の挨拶をする後藤淳理事長

いけない。学校は若い人が集まって一緒になって勉強する。先生方は学生を教え、社会へ出て頑張れる人を育てることを大事な目標として頑張ってください」と激励しました。

後藤泰之学長は学園・大

バラエティー豊かに計10曲が披露された高校吹奏楽部の定期演奏会



新春華やかに吹奏楽部演奏会

学園が主催する高校吹奏楽部の第四十九回定期演奏会が一月五日、名古屋国際会議場白鳥センチュリーホールで開かれ、昼と夜の部に合わせて会場いっぱいの約五千五百人が訪れました。開演にあたって後藤淳理事長が「若い者がひとつになつて頑張っています。明るい年になるよう願いを込めてゆっくり聞いてください」と挨拶しました。

行進曲「ボギー大佐」からジャズの名曲、ビートルズの「イマジジン」、アニメソングまでバラエティー豊かに計十曲が伊藤宏樹教諭らの指揮で披露されました。特に今回は作曲家の八木澤教司氏に委嘱した「エディソンの光」メンロパークの「魔術師」など八木澤作品三曲を含みましたが、同じ作曲家の作品を三曲演奏するプログラムは初めてというところで、八木澤氏自身の指揮による「あすという日」の合唱もありました。

新年を飾るにふさわしい華やかな舞台に会場からは大きな拍手が送られました。



年頭の挨拶をする後藤泰之学長

学で挨拶しました。この中で昨年の大学に対する外部評価の实地調査について触れ、「概ね良好との評価が届いています。これも皆さんの日ごろの努力の積み重ねのおかげです」とお礼を述べました。

また新棟が今年中に完成することに関連して「2、5号館を取り壊した後のキャンパスデザインも考えていきたい。自由ヶ丘キャンパスも課題が出てきており、八草キャンパスと新たな連携が図れるよう取り組みたい。入試、卒業式など新年度を迎える準備が忙しくなりますが、健康に留意してこの一年乗り切ってください。来年も、教職員を励ましました。」

名古屋電気学園百年史を刊行

創立期から情報化時代まで

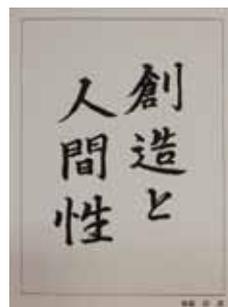
学園が創立百周年を記念して編集を進めていた「名古屋電気学園百年史」が一月に刊行されました。学園の教育モットー「創造と人間性」(後藤淳理理事長揮毫)を巻頭に掲げ、発刊の挨拶の中で後藤理事長は「学園が歩んできた道のりへの理解を深め、学園がさらに社会的使命を果たしていく道しるべとしたい」と述べています。

B5判、五百六十七ページに及ぶ大部で、初めに百年の歩みと百周年記念事業を多数の写真で紹介、第I部が学園史、第II部が学校史、第III部が関係団体、第IV部が姉妹学園という構成になっています。

学園史では中部地方初の



発刊された
名古屋電気学園百年史



巻頭を飾る
教育モットー

電気学校としての創立期をはじめ基盤形成期、新学制対応期、拡大・躍進期、総合化推進期、高度情報化対応期と章分けし、期ごとに歩みを正確に紹介、それぞれの章で過去の追想録などから関係者の寄稿を証言として引用しており先達の熱意が臨場感を持って伝わってきます。学校史では附属中学校、名電高校、愛知工業大学、情報電子専門学校について歩みや現状を紹介しています。

これまで昭和四十七年十二月に発行された「故後藤鉦二前学園長を偲ぶ 創立六十年史」のほか七十年、八十年、九十年にも写真を中心にした年史が発行されてきましたが、学園では創立百周年を迎えるにあたり、前年の平成二十三年四

月に後藤理事長、後藤泰之次学長を顧問として百年史編集委員会(稲垣慎二委員長)を発足させました。元学園総務部長の林憲二氏が編集の実務にあたり、式典で配布する記念誌と正史の並行作業に取り組みました。移転・引越など資料が不十分な時代

もあり、教職員OBに直接取材したり資料提供も受け取りました。編集委員会の後記によると、「工科系総合学園」という本学園独自の教育理念を次代へ継承することに主眼を置きました。学園の内外に配布を始め

愛名会会員企業 417社参加 学内企業展 学生の熱気

学園の後援組織「愛名会」の会員企業を対象とした学内企業展が二月十三、十四日、八草キャンパスの鉦徳館(体育館)で開かれ、就職活動が本番を迎えました。企業は両日の午前、午後



大勢の学生が訪れた愛名会
会員企業対象の学内企業展

全体で前年比約三割増と好調で、訪れた大勢の学生たちは期待感を持って各社のブースを回っていました。初日の開会式で後藤泰之次学長が「企業と学生双方にとって実りある場にしてください」と挨拶。就職担当教員と企業担当者との名刺

交換もありました。入場時間になると、リクルート姿の学生たちは待ちかねたように各企業を回り説明を受けていました。電気学科の男子三年生は「電気関係が志望。二日間で十社以上は回りたいが、結構手ごたえを感じています。なんとか

この企業展で絞り込みたい」と意欲を見せていました。

本学キャリアセンターによると、求人数は全学科で昨年を上回っており、特に都市環境学科の土木系はアベノミクス、復興、リニアなどの効果で前年比四〇%を超えています。渡辺修同センター長も「学生にとっ

てありがたい状況。チャンスを生かして頑張ってほしい」とエールを送っていました。

名古屋市港区にある海洋関連の建設会社の担当者は「愛工大からこれまで五人採用しています。企業展は会社を知ってもらい興味を持ってもらう、PRのよい機会です」と話し、三年前に入社したというOBも「ぜひ先輩と一緒に仕事がしたい」と学生を応援していました。

企業展は毎年開かれ、昨年の卒業生の場合、三割強が愛名会企業に就職しており、就職に強い本学を支える一要因になっています。二月二十七、二十八日にも学内企業展(一般)が行われました。

新2号館（仮称）着工

地上6階地下2階 12月完成目指す

学園は十二月十八日、大学八草キャンパスで新2号館（仮称）建築の地鎮祭を行い、着工しました。後藤淳理事長はじめ学園・大学幹部、施工業者ら約五十人が出席して工事の無事安全を祈りました。ことし十二月の完成を目指し、現在2、5号館の建築学科、電気学科が新館に移転します。

建築場所は旧セントラル食堂を解体した跡地約千七百八十九平方メートル。鉄骨・鉄筋コンクリート造



新2号館（仮称）の完成予想図。左は現在の12号館

り地上六階、地下二階建てで、延べ床面積は約八千六百九十九平方メートル。北側の道路面を基準に地上、地下を分け、地下一、二階には吹き抜け空間もあり、建築学科がアトリエ、製図室などとして使用します。

一階には本格的なロボットミュージアムが整備され、二階は事務室が入ります。三、四階は建築学科、五、六階は電気学科の研究室が入る予定です。電気学科は二分の一強が新館へ移り、あとは8号館に残ることになります。

新館では、省エネ対策として照明はすべてLED器具を採用、空調や日射制御の構造も取り入れていきます。キャンパスの中央部に位置していることから防災対策拠点（サブ）としての機能も持たせ、研究面では太陽光・風力発電の自然エネルギー利用、既存施設の棟ごとの電力使用量をエントランスホールのモニターで表示する「見える化」などが特徴となっています。



鉄入れする 後藤淳理事長

今後、2、5号館を解体撤去した跡地は中央広場として学生が憩える空間などに有効活用する考えです。

名古屋電気学園 ロボット交流会

大好きっ子集合

第二回名古屋電気学園ロボット交流会が二月八日、若水キャンパス淳和記念館のオープンプラザで開かれまして。「集え！ロボット大好きっ子」と題して一般にも開放、市民や子どもたちが見学に訪れ、雪が降るあいにくの天候でしたが、会場に集合したロボット大好きっ子の熱気があふれていました。

愛知工業大学、愛工大名電高校、愛工大附属中、本山ロボット教室（小学生・中学生）を通じて一



開会式の後、後藤泰之学長を囲み、ロボット競技会に参加する子どもたちが記念撮影しました

貫して行われているロボット教育を広く知ってもらお

地鎮祭では後藤理事長が鉄入れし、玉串奉奠などがありました。続く直会で後藤理事長が挨拶、「八草移転を決めて間もなく五十年。見直すところも多くありますが、今回は2、5号館を建て替えることになりました。一年後を楽しみにしていただきたい」と述べました。

うと、淳和記念館建設をきっかけに設置校が共催して昨年からはまりました。

開会式で後藤泰之学長は「ロボットの魅力を楽しんで、失敗を恐れずにチャレンジしてください」と挨拶しました。

午前は、交流会ツアーが行われ、大学の奥川研究室のレスキューロボット、伊藤研究室のロボカップ、古橋研究室の鉄人、水野研究室のETロボット、末松客員教授によるからくり人形などの各デモンストレーションを見て回りました。

テレビのリアルロボットバトルに参戦した鉄人の実演もあり、その迫力に子どもたちは驚きの表情で見えました。

午後は、自律走行型ロボットの競技会が行われ、五十九チーム、八十人が挑戦しました。小学生、中学生、高校生の部に別れ、名古屋電気学園ルールに基づくレスキューコースで競いました。

また高校専門学科1年によるデザインコンテストの作品も展示され、投票も行われました。

映画「A・F・O」 劇場公開スタート

映画「A・F・O」の
ポスター



学園創立百周年を記念して大学が製作していた映画「A・F・O」が完成、劇場公開が始まっています。名古屋市の伏見ミリオン座では東海地区先行ロードショーとして二月二十二日から一週間上映されました。また三月一日からは小牧、春日井、中川、半田、安城、豊川、大垣の各コロナワールドでも上映されました。

今後、四月二十六日(土)からシネマート新宿で公開されるほか青森、小田原、金沢、福井、福山、小倉の各コロナワールドや大阪シアターセブンでも順次公開

の予定です。

映画は本学客員教授でもある堤幸彦監督が総監督を務め、「二十一世紀のニューキャンパスムービー」として愛工大生とともに製作、昨年夏休みには八草キャンパス内でロケも行われました。たった一人のブラジル人留学生に友情を伝えるため、五千人の学生が人文字を作り地球の反対側へメッセージを届けるという壮大

専門学校の一 般入試は3月27日まで

愛知工業大学情報電子専門学校(豊田市)の一般入試は昨年十二月一日から三月二十七日まで計五回実施しています。専門学校は一九九二年に豊田市や地元産業界の支援で開校、高度情報処理学科、情報工学科、電子制御学科、CAD・C

なストーリー。A・F・O(オール・フォー・ワン)の意味にもなっています。一月十五日に授業のため本学を訪れた堤監督は、映画の出来栄えについて学生のインタビューに答え「編集中の映画を見て感動しました。特に階段のシーンなど泣けました。学生さんが一生懸命演技しているのが伝わってきました。一つの大学空間を単位にした映画は珍しく、随所で学生さんが様々に関わって頑張り、面白い作品に仕上がっています。最大の見どころです」と話していました。

三月一日には八草キャンパス愛和講堂で映画制作活動報告会が開かれ、学内試写の後、学生たちが部ごとに発表しました。

山崎武司さん引退記念パーティー 功績たたえる



後藤淳理事長も加わって行われた鏡割り

名電高校野球部出身で中日ドラゴンズなどプロ野球で活躍した山崎武司さんの引退記念パーティー「山崎武司プロ野球在籍27年の軌跡」が1月19日、名古屋市内のホテルで盛大に開かれました。奥村衛野球部OB会会長を发起人代表に学園、高校同窓会が後援、山崎さんの功績をたたえ、長年の支援に感謝を込めて企画されました。学園、中日球団、山崎後援会の関係者ら1640人が出席、楽天時代の監督・野村克也さんやヤンキースへ移籍する田中将大投手らも駆けつけました。

来賓を代表して挨拶に立った野村さんや野球部元監督の中村豪さんは「今後は指導者としてプロ野球界に貢献を」とエールを送りました。これに対し山崎さんは「27年間はあっという間でした。第二の人生も皆さんに認めてもらえるように頑張っていきたい」と応えていました。

この後、後藤淳理事長、奥村会長、中村さん、佐々木崇夫中日球団社長らが加わって鏡割りを行い、会場全員で乾杯しました。ステージに登場した田中投手は「山崎さんには野球のいろはを教えてくださいました。昨年の最後の対戦では打たれましたが、いい思い出です」と語り、歓声に包まれていました。

3月21日にナゴヤドームで予定されている楽天とのオープン戦が引退試合として行われることも発表されました。

設置校で相次ぎ入試

附属中、倍率は6・6倍

附属中学の入学試験は愛知県内の私立中のトップを切つて一月二十五日が奨学生試験、二十六日が第一回試験の両日行われ、両試験合わせて百五人の募集に対して志願者数六百九十三人、倍率は6・6倍でした
写真上。冷え込みが厳しい早朝から、児童たちは保護者と一緒に関わり、塾の先生たちの激励を受けながら試験会場へ入っていました。試験は各教室での担当教諭の説明が続いて、午前八時三十分から始まり、国語、理科、社会、算数の四教科を受けました。必勝の鉢巻姿も見られ、児童たちは緊張した様子で問題に取り組んでいました。



名電高校、4千人超す

県内私立高校の中でも指折りのマンモス入試である一般入試は二月四日、若水キャンパス北校舎、南校舎各教室や体育館、淳和記念館を会場に行われました。受験生は直前まで参考書を開くなど緊張感に包まれていました**写真中。**受験生は試験監督の教諭から注意事項などを聞いた後、国語など五教科の問題に取り組んでいました。入試の志願者は普通科、科学技術・情報科学科合わせて五百五十八人の募集に対し、推薦入試や中高接続を合わせると四千十三人でした。
大学前期日程6百人増
 前期日程A方式(記述式)が一月二十七、二十八日、同M方式(マークセンス式)が二十九日と三日間続いて

教室を確認して会場へ入っていきました。教室内では緊張した様子が見られました**写真下。**三日間の試験中トラブルもありませんでした。前期日程は三学部七学科十三専攻の募集人員六百三十七人に対して志願者総数は昨年より約六百人多い五千五百八人でした。

行われました。八草キャンパス、自由ヶ丘キャンパスのほか地方会場は岐阜、四日市、津、浜松、静岡、金沢、富山、松本、岡山、福岡の十カ所でありました。八草キャンパスでは早朝から受験生が訪れ、10号館入り口で

吉村選手、混合で準優勝



学園の各設置校卓球部は東京体育館で一月十四、十九日に開かれた全日本卓球選手権に総勢三十一人が参加しました。

このうち、大学男子卓球部の吉村真晴選手(経営学科2年)は混合ダブルスで石川佳純選手(全農)とペアを組み**写真、卓球王国提供**、昨年に続き準優勝しました。

また男子シングルスでは吉田雅己選手(経営学科1年)が六回戦で全日本チャンピオンの丹羽孝希選手(明大)を破りベスト8、高校の上江洲光志選手がベスト32に勝ち上がり、五回戦で丹羽選手と対戦しましたが敗れました。男子ダブルスでは森本耕平選手(経営学科4年)・吉村選手のペアがベスト8でした。

ジュニア男子の部には中学、高校から十一人が参加、高校の松下大星がベスト16でした。ちなみに優勝は吉村選手の弟・吉村和弘選手(野田学園高)でした。

あいわ幼稚園で餅つき

後藤園長と楽しいひと時

名古屋市長東区の姉妹学園・あいわ幼稚園で十二月十七日、年末恒例の餅つきが行われ、九クラスの三百人近い園児たちは後藤泰之園長(愛工大学長)と楽しいひと時を過ごしました。肌寒い天気でしたが、楽しみにしていた園児たちはクラスごとに元気いっぱい



後藤泰之園長や学園職員と一緒に餅つきをする園児たち

園庭へ。園児たちは白を囲み、二人ずつ交代で、女の子は後藤園長と、男の子は応援に駆け付けた名古屋電気学園の若手職員と一緒に杵を持って計八臼つきあげました。順番を待つ園児たちも「よいしょ! よいしょ!」の掛け声で応援しました。後藤園長と記念写真も撮り、つきあげた餅はきな粉と餡子で丸め、おいしそうに食べました。

離任の張立国氏
 中国の張立国・名古屋総領事が十二月十七日、愛知県日本中国友好協会会長を務める後藤淳理事長に離任挨拶のため若水キャンパス淳和記念館を訪れました。

淳和記念館



▲ 離任挨拶に訪れた張立国氏(中央)と握手する後藤理事長。左は太田宏次会長

一月十五日に任期満了を迎え、四年二月月の名古屋勤務となった張総領事は「後藤会長には大変ご支援いただき、外交官生活の中でも忘れがたい地になりました。来年からは民間人になります。また中部を訪問したい」とお礼を述べました。太田宏次名古屋日本中国友好協会会長、後藤泰之学長も同席、後藤理事長は「早いものですね。

日中が難しい時代に民間交流に尽力され、本当にお世話になりました」とねぎらっていました。

張総領事が「ピンポン外交のことは中国人なら皆知っています。ピンポン外交の四十周年祝賀会に出席できたのは特に印象深い」と述べたのに対し、後藤理事長は「学園では八十年間、重要スポーツとして卓球に取り組んでいます」と応じていました。この後、後藤理事長がメモリアルギャラリーを案内、学園の百年の歴史を説明していました。

新旧の中国総領事
 後藤淳理事長を訪問



▲ 着任挨拶に訪れた葛広彪氏(左)に学園の百年の歴史を説明する後藤理事長

立国・前総領事の後任として第三代総領事に派遣されました。東京の中国大使館に三度勤務したほか大阪の副総領事も務めた日本通で、前総領事が進めてきた地方レベルでの積極的な日中間の人的、経済交流を引き続き進めていくものとみられています。

葛総領事は着任前に卓球の世界選手権名古屋大会(一九七一年)で通訳を務

め後藤理事長とも親交のある唐家璇・中日友好協会会長を訪ね、唐会長から「後藤先生によるよく伝えてください」との伝言や名古屋についてアドバイスがあったことを紹介、「日中友好の大先輩と名古屋で仕事できるのは幸せ」と述べました。葛総領事と後藤理事長は懇談で、家族、設置校、中国の教育制度など幅広い話題に話が弾みました。

葛総領事はギャラリーで学園の百年の歴史も見学しましたが、明るい人柄で和やかな一時になりました。

紅葉の八草キャンパスを開放
 フォトコンテスト優秀作品決まる
 本学や本山キャンパスで展示

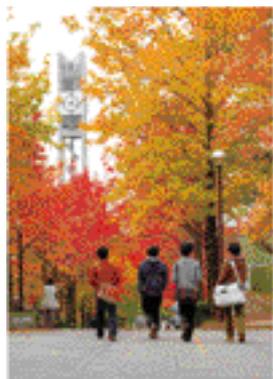


最優秀賞の市川修次さんの「灯りと彩の窓」



学長特別賞の本村譲治さんの「学舎と蓮池」

優秀賞の富田誠司さんの「キャンパス溪谷」



ん(豊田市)の「キャンパス溪谷」、学長特別賞には本村譲治さん(豊田市)の「学舎と蓮池」、入賞八人が決まりました。

作品は一月には八草キャンパス1号館で、その後、三月十四日まで本学キャンパスで展示されました。

撮影会当日には、瀬戸市内の絵画グループの人たちもスケッチに訪れていました。



後藤泰之学長ら大学幹部が出席して行われた審査